

主催者挨拶 三重県知事 一見勝之氏

「友がみな われよりえらく 見ゆる日よ 花を買ひ来て 妻としたしむ」

ひきこもり支援フォーラムを開催させていただきましたところ、多くの方においでいただきまして御礼を申し上げます。ご紹介いただきました三重県知事の一見勝之でございます。

申し上げました歌は、ご存じの方も多いと思いますが、石川啄木「一握の砂」歌集に入っている歌です。後ほど、これについてちょっと私なりの解釈をお話しさせていただきたいと思っております。

このフォーラムは、県が主催に入らせていただいて3回目のフォーラムです。その前に三重県では、今日もおいでになっておられますけれども、県議会の先生方が有志で、「ひきこもりというのが現象として、あるいは悩んでいる人がおられる。そういう人たちに寄り添って手を差し伸べていく必要がある」ということで、一昨年、四日市で、このフォーラムの第1回目を開いていただきました。いま三重県はひきこもりに関しての先進県といわれていますが、これは県議会の先生方が「やろう」と言ってやっていただいたおかげです。

今日は多くの方々においでいただいています。また、全国から済生会の皆さんが、三重県はひきこもりに関してかなり力を入れているということでぜひ見てみたいと、北海道あるいは熊本まで全国からおいでになっていただいています。心から感謝を申し上げます。また、この会を開くにあたって伊勢市の皆さんに大変ご尽力をいただきました。この点に関しましても、主催者を代表いたしまして御礼を申し上げたいと思います。

石川啄木の歌。誰でも自分がちっぽけに見える。人が偉く見える。仕事場に行くのが嫌だ。学校もそうかもしれませぬ。成績が落ちてきてしまった。ほかの子のほうが立派に見える。行くの嫌だな。思うことがあると思うんです。私も山ほどありました。そういうときに花を買ってきて心の癒やしをする。あるいは家族と「今日、こんな嫌なことがあったんや。私が何かやっとなんかあない気がするんやわ」というような話をして、人間はリセットしていくのだと思います。気持ちをリセットしていくことによって、明日の活力というのを生み出しているのだと思います。どんなに偉い人でもそうだと思います。だけど、そのリセットがうまいこといかないようになることもあると思います。そのときにひきこもりになる。

だけど、本人はまた社会に戻ってきたいという気持ちを持っておいでになります。私、ひきこもりのフォーラムに出させていただきますので、そのあと、いなべの瑠璃庵に行かせ

ていただきました。そこで実際におられる子どもさんとも話をしました。元気にお話し  
ていただきました。おそらく、しばらくしたら学校に戻っていくのと違うかなという、そ  
んな子どもでした。皆、社会に戻っていきたいという気持ちをどこかに持っておられます。

われわれ社会で暮らす人間は、その人たちに寄り添って、そして社会に戻っていきたい  
という気持ちを助けていくというのが大事なことだと思います。そのためには、ひきこも  
りの実態を理解する必要があると思います。三重県が参加をさせていただきましたフォー  
ラムは、去年の4月に津で、8月に松阪でやらせていただきました。それぞれ約400人の  
方々がおいでになって、話も聞いていただいて、「ひきこもりについてわかったような気が  
する。これからも勉強していきたい」と言っていただきました。非常にありがたい話です。

ひきこもりは全国にいま146万人おられるといわれています。三重県でもこの間までは  
1万数千人と言っていました。2万人ぐらいおられるのではないかとというふうにだんだ  
ん数字も変わってきています。全国は厚労省が対応を取り始めて、いま調査をやってい  
ますが、三重県は令和2年から調査をしています。そして、先ほど司会のほうから話があり  
ましたが、去年の3月にはひきこもりの支援計画というものをつくりました。でも、これ  
はこれで終わりではありません。見直しをしていく必要があります。

先ほども申し上げましたが、ひきこもり、きっかけはいろいろです。自分が小さいのと  
違うかと、心がちょっとうつむいてしまうところから始まることもありますし、学校なん  
かでは、津で先生のお話を聞きましたけど、いじめから始まるものもあります。いじめは  
撲滅していかなければいけないです。大人の社会ではパワハラというのが徐々に少なくな  
ってきました。ところが、学校ではまだいじめがある。これをどうやって撲滅していくか  
というのは考えていかなければいけないのですが、いじめによって不登校でひきこもっ  
てしまった人で、学校に戻りたいという気持ちを持っている方に、どのように寄り添って学  
校に戻れるようにするか。そういうことを考えていかなければいけないと思います。

県では、令和5年度予算、これは議会でお認めいただきまして、ひきこもりに対する対  
応支援策というのを強化もさせていただいているところです。でも、これは終わりがあり  
ません。ずっとやっていかなければいけないと思っております。このフォーラムを通しま  
して、ひきこもりに対する皆さんのご理解を深めていただき、これからも一步一步前に進  
めていって、困っている人たちに寄り添うことができたらいいなと思っております。

今日のフォーラムが皆さんのご理解の一助になることを祈念、心よりお祈りいたしまし  
て、主催者としての私の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。